

令和6年度英語授業改善協力校事業に係る公開授業および授業研究会

本事業は、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業実践を県内に広く普及する目的で実施しています。

本年度は、栗東市立金勝小学校および東近江市立玉園中学校に御協力いただきました。各協力校では、年3回の公開授業および授業研究会を通して、継続的に授業改善に取り組まれました。本号と次号では、その様子を校種ごとにお伝えいたします。まずは、[小学校]編です。

年間の流れ

- ・テーマ決定(5月)
- ・テーマに沿った授業実践
- ・校内公開授業および授業研究会(5月)

- ・テーマに沿った授業実践
- ・市内公開授業および授業研究会(10月)

- ・テーマに沿った授業実践
- ・県内公開授業および授業研究会(11月)

[小学校]

<テーマ>

ゴールに向かって児童が自ら学習を進める外国語科の授業
～学習者用デジタル教科書の活用と児童の振り返りを通して～

11月の公開授業および授業研究会の様子

滋賀県国際交流員のBさんからの「自分たちと世界とのつながりを紹介してほしい。」というリクエストを受けて、児童たちが自分たちの身近なものと世界とのつながりを紹介することになりました。「ゴールに向かって児童が自ら学習を進める外国語科の授業」というテーマに関わって、大きく3つのポイントに絞ってご紹介します。



A 教諭

単元名:Where is it from?

(NEW HORIZON Elementary English Course 6 Unit5 東京書籍)

単元の目標:自分たちと世界とのつながりを見つけ、そのつながりをB先生に伝えるために、身の回りのものの生産国について紹介することができる。

本時の目標:自分の身の回りのものの生産国を伝えよう。

Point 1

単元のゴールに到達するために、必要な内容を確認する



クリス先生の写真とともに単元のゴールが書かれたラミネートを提示するA教諭

授業の冒頭、児童はお気に入りの文房具についてスモールトークを行いました。“This is my favorite pen.” “Why?” “It’s good.” “I always use it. How about you?”のように、既習表現を使ってやり取りしました。

その後、A教諭は「世界とのつながりをB先生に伝える」という単元のゴールを確認し、そのためには何を伝えないといけないかを問いました。児童から「どこでできたかを伝えないといけない」という意見が出たので、「身の回りのものの生産国を伝えよう」を本時のめあてにすることを決めました。

このように単元のゴールを踏まえて、学習に必要な内容を確認する場面を設定することが、児童が自ら学習を進める上で大切になります。

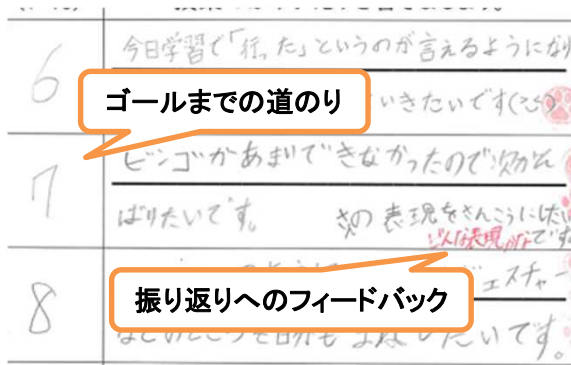
Point 2 学習者用デジタル教科書を使って個別に学ぶ

生産国を伝えるために、国名の言い方を確認しました。児童が伝えたいものやその生産国はクラスによって異なります。それぞれのクラスに合わせて、国名のピクチャーカード等が用意されていました。

一度全体で練習をした後、児童が学習者用デジタル教科書で個別に練習する時間を確保されました。児童は自分が伝えたいものが生産された国名を正式にはどのように言うのか調べたり、発音を確認したりしました。その際、A教諭は「慣れてきたら声を出してみてね」などと声をかけておられました。

児童は学習者用デジタル教科書を使う時間があっても、音声を聞くだけになってしまいがちです。これでは語句や表現の十分な定着につながりません。「声に出すこと」等、どのように学習者用デジタル教科書を使えばよいのかを学べるようにする必要があります。

Point 3 メタ認知を促す振り返りと適切なフィードバック



授業の最後に児童は振り返りを行いました。ワークシートには「ゴールまでの道のり」として、1～10までの数字を書くようになっており、児童が自分の達成度を客観的に見られるよう工夫されていました。

また、A教諭は、振り返りを書いている時や授業後に個別にフィードバックをされていました。左の振り返りでは、「～さんの表現を参考にしたい」と書いている児童には「どんな表現かな」と具体的に意識するように促しておられました。

このようなメタ認知を促す振り返りと適切なフィードバックが、児童の自己調整をする力につながります。

参加者の感想

児童が学習を通して「何を学ぶか」という意識だけでなく、それを「どのように学ぶか」ということを意識できるような工夫をすることが大切であることを学びました。

国名を一人で学べる学習者用デジタル教科書の活用が素敵でした。自分が知りたい発音や集中して練習したいところを個別に学習できるところがよいと思いました。

振り返りの大切さがわかりました。A先生のフィードバックが丁寧であるからこそ、子ども達はしっかり振り返りを書くこうとするし、そのために授業をがんばろうとするという流れができているのだなと思いました。研究会の資料にあった振り返りの視点を参考に、明日からの授業に生かしていきたいと思います。

学習者用デジタル教科書の活用事例(山梨市立加納岩小学校)

右のQRコードで文部科学省mextchannelにアクセスすると、「家庭学習との往還による自律的な学習者の育成」をテーマにした山梨市立加納岩小学校の実践動画を御覧いただけます。家庭学習での学習者用デジタル教科書の活用について紹介されていますが、児童が活用している表計算ソフトの中に下のような記述があります。

学習者用デジタル教科書を使った学び方を身に付けることで、児童は主体的に学習に取り組めるようになります。



学び方

- ① 音声に合わせて声を出そう
- ② “ちょっとむずかしいこと”に挑戦しよう
- ③ 字幕表示は、10回聞いて内容を予想してから
- ④ 十分慣れたら音と字幕表記とを一致させよう
- ⑤ 自分の課題を解決するための学習をしよう

コンテンツ	取り組み方
Story	登場人物になりきって、一緒に言ってみよう。 レベル1×0.75、レベル2×1、レベル3×1.25。まずはレベル1から挑戦！
Let's watch	Storyと同じ進め方でやってみよう。 短いから取り組みやすい！
フラッシュカード	はじめはイラストのみ、慣れてきたらイラスト小→文字大 最後は文字だけで読めるかな？
Let's chant	挑戦するパートを決めよう。 レベル1×0.75、レベル2×1、レベル3×1.25。まずはレベル1から挑戦！
Let's song	挑戦するパートを決めよう。 レベル1×0.75、レベル2×1、レベル3×1.25。まずはレベル1から挑戦！
Let's listen	授業を復習したいときに使おう。 Storyみたいにやってみるのもいいね。

学習者用デジタル教科書の学び方を紹介。

学習者用デジタル教科書の各コンテンツでどのように学べばよいかを紹介。